

対象国の条件: アフリカ地域「市場志向型農業振興」コースに参加済の国もしくはSHEP関係国

研修コース番号: 201984690-J002

案件番号: 201984690

主分野課題: 農業開発/農業サービス (普及、研究、金融、農民組織等)

副分野課題:

使用言語: 英語

案件概要

本コースは、小規模農家が作物を「作ってから売る」のではなく、「売のために作る」というケニアで成果をあげている手法や考え方 (SHEPアプローチ)、市場志向型農業の基本的な考え方について学ぶ。また、市場ニーズに対応した野菜栽培技術、流通・販売方法および普及手法について、講義や視察に加え、演習や圃場実習も取り入れ、帰国後活動を見据えながら実践的に学ぶ。

目標/成果

対象組織/人材

【案件目標】

本邦で学んだ市場志向型農業、野菜栽培技術、流通・販売方法および普及手法が帰国報告会等を通じて所属組織・担当地域内で共有される。

【対象組織】

営農指導/普及を所掌する中央官公省庁、または地方政府

【成果】

- (1) 研修員の母国における園芸作物 (野菜) の栽培、流通/販売方法およびその普及方法における課題が抽出/分析される。
- (2) SHEPアプローチについて理解し、その実践における帰国後の自身の役割が説明できる。
- (3) 園芸 (野菜) 作物の市場動向及び流通販売システムを活用する手法を習得する。
- (4) 市場志向型農業における、野菜栽培の有用技術が説明及び実践できる。
- (5) 小規模農民の組織化、農業技術開発・普及システム及び手法の要点を理解し、説明できる。
- (6) 日本での学びの取りまとめ及び自国で適用する方法が検討され、その内容がレポートに取りまとめられる。
- (7) SHEPアプローチに基づく活動を推進するに当たり必要な知識・技術が説明できる。
- (8) (7) で作成されたレポートの内容が、所属組織や担当地域において共有される。

【対象人材】

- ・農業 (特に野菜生産) の研修または技術普及に従事する者
- ・3年以上の関連業務 (野菜生産) での実務経験を有する者
- ・大卒またはそれと同等の学歴を有する者
- ・屋外を含む50%の実習を含む研修に適す、心身とも健康な者

内 容

1. 自国における普及体制の現状、SHEP活動の進捗、自身の関わり、帰国後の活動計画、課題の分析、想定される解決方法を記載したインセプションレポートの作成
2. 市場志向型農業開発実施の背景、SHEPアプローチに関する講義、討論、演習
3. 園芸作物 (野菜) の市場動向把握方法、流通販売システムやその活用方法に関する講義、視察、討論
4. 市場ニーズに対応した野菜栽培技術 (安定生産、品質管理、適正な資材投入等) に関する講義、視察、実習
5. 日本の農業普及制度、農民組織化等に関する講義、視察、討論、演習
個別実験の計画、実施、まとめ
6. インタリムレポートの作成 (研修での学び、自国での適用方法等)
7. 所属先や担当地域での帰国報告会の実施、およびその結果報告

本邦研修期間

2019/4~2019/9

担当課題部

農村開発部

所管国内機関

JICA筑波 (研修業務)

関係省庁

実施年度

2018~2020

主要協力機関

一般社団法人 海外農業開発協会

**特記事項
及び
ホームページ**